

朝刊・2025年01月30日（木）

こだわりの塩 瀬戸内海描く



高純度の塩で瀬戸内海を表現したナйка塩業のアート作品

来年「産業芸術祭」玉野で作品披露

瀬戸内地域の産業とアート関係者向けモニターツアーが、高度なものづくり技術をと組み合わせ来年初開催。29日、玉野市内の3工場で、表現したアート作品が披露される。観光プロジェクト「瀬開かれた。アートの宝庫」から、瀬戸内産業芸術祭の報道関係者と連携し、自社のこだわり、製造業のナйка塩業

（倉敷市）の本社工場（玉野市岡上）では、近海の水から生産する塩を使い、瀬戸内海をイメージしたインスタレーション（空間芸術）を展開した。現代美術家の山本基さん（尾道市出身）が手がけ、同社が誇る高純度の塩を敷いて、海面や複雑な地形を想起させる独特の模様を描きだした。

船舶用エンジン部品製造の宮原製作所（玉野市宇野）は、排気弁やピストンに用いる精密な加工技術を生かした鋼材のいすを展示。大型蓄電池を製造するベンチャー企業パワーエックス（東京）の組立工場（玉野市田井）では、点滅する無数のライトを集めて美しい明かりを生みだし、再生可能エネルギーなど多様な電力の安定供給に蓄電池が寄与する姿を可視化した。

芸術祭を中心となって推進する同社の伊藤正裕社長は「芸術は視点を養えてくれる。見た人が楽しみながら、日本の発展を支えた瀬戸内の産業や地域への理解を深める取り組みにしたい」と話し、多彩な企業の参加を呼びかけた。

芸術祭は来年春までに開

1月アンケート抽選会
和牛の誇り
抽選会
山陽新聞型住宅展示場
岡山県岡山市南区藤田・坂ヶ原南館5階
TEL.086-239-3434

幕し、初回は岡山、広島県を中心に10社の参加を目指す。モニターツアーは31日まで行い、企業や行政関係者、市民ら約180人が参加する。（高橋由大）

